

次号予告

特集 戦略的情報システム(SIS)の展開

戦略情報システムの概念と構造
……藤基佳男(住友金属情報システム)

TWIN'ETサービスの概要について
……林 健二(NTTデータ)

流通業におけるSISについて
……高月敏晴(アジア太平洋トレードセンター)

グローバル企業の情報システム——IBMにおける事例……渡部 弘(日本IBM)

90年代を生き抜くアパレルの全員参加型情報システム……井田重男(サンリット)

事例研究

受験生の併願状況に見られる大学・学部に対する選好……田口 東, 他(山梨大学)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長	若山 邦紘	法政大学
副委員長	浦谷 規	法政大学
委員	相沢りえ子	榊構造計画研究所
	上野 哲郎	和光大学
	大村 雄史	住友商事㈱
	片山 隆仁	防衛庁
	川合 庸一	川合産業研究事務所
	木嶋 恭一	東京工業大学
	小池 將貴	筑波技術短期大学
	逆瀬川浩孝	筑波大学
	坂本 善博	富士通㈱
	新村 秀一	住商コンピューターサービス㈱
	町原 文明	日本電信電話㈱
	宮田 雅智	青山学院女子短期大学
	吉田 敏弘	ソロモン・ブラザーズ・アジア証券会社

編集後記 ●今月号の特集は「最適化とその応用」というテーマです。ORにおいては、なんらかの意味で最適化に関する概念を扱わない問題というのは考えられないほど我々にとっては馴染みの深いテーマではないでしょうか。与えられた状況から問題を設定し、その問題に取り組みながら状況を改善していくというのが実務家にとっての最終的な目的とすれば、いかに正確に問題を認識し、効率的に(納得できる)解決案を用意できるかというのはまさに最適化の問題そのものです。ところが、実務においてそのような問題を考える時に重要かつ難しい点になるのは、問題をどのような視点、すなわち手法を用いて考えてゆくかという1つ高いレベルにおける最適化の問題ではないでしょうか。たとえば、今回の特集でも、応用に関する論文に数理計画と人工知能との関係に言及している論文がいくつかあるのは興味深い点です。すなわち、当り前のことと言われるかもしれませんが、実際

の問題を解決していく上で、従来の最適化技法単体では補いきれない部分を手法のハイブリッド化で総合的に解決していくという姿勢こそが重要なのでしょうか。その意味で、手法としての差異を正しく認識するという事は適切な手法選択、組み合わせを行なう上で必要不可欠ですが、重要なのは、数理計画とか人工知能とかといったレベルでの善し悪しの問題ではないということでしょう。ORの実務家にとっては、どの手法で何がどこまでできて、目前の問題を解くためにはそれらの手法をどのように組み合わせることが最適なのか、に対する知識と判断が求められているのではないのでしょうか。このためにも、手法の高度化、精緻化という地道な部分での努力とともに、それが実務においてどのように適用可能であったのか、適用可能でない部分をどのように解決していったのかというORにおける知恵の問題も積極的に取り上げられて議論されるべきなのでしょう。(吉田敏弘)

本誌に記載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成4年2月号 第37巻 第2号 通巻374号

代表者 岡 久 雄

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113

編集人 若山 邦 紘

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体922円,郵送料含)年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)、日経弘報社(3583-2241)へ